

(二十六) 「青木」と「三蔵」

東林木町国道四三一号バイパスの南方・一畑電鉄大寺駅近辺から浜町内までの田園地帯を「青木」と呼びます。

寛永十六年(一六三九)出雲地方では大洪水が発生して、それまで斐伊川は西流して日本海に注いでいた本流が閉鎖して、宍道湖方面への一路本流となったという記録があります。

そのころまでの青木地帯は、斐伊川の小さな支流が東流しており、川の周辺には青々とした草木が生え繁っていたものと思われるます。

古来から青は空の色や海の色に表わされるように生活の中に常にある色です。また中国には五行四想という考え方がありますが、青は木を意味し、人を包み込む豊かな心「仁」と表わされています。神社の祭礼の際に使われる五色絹(ごしきぎぬ)の「五色」は、古代中国に成立した「五行説(ごぎょうせつ)」という学説に由来され、天地万物を造っている五つの要素、木・火・土・金・水を意味しています。

また「青木」と東方に隣接して「三蔵」と呼ばれる地帯があります。古老の話によりますと「三蔵」は、昔、大寺薬師の寺領地であつたそうです。

「三蔵」とは 仏教用語で「三種の箴」という意味で「経・律・論」の「三蔵」に通じている学僧を尊称するときに、名前の後に

「三蔵」を付けることがあつたようです。(例・三蔵法師)

このような観点から「青木」はまだ未開拓地のこの純粹で神聖な土地を地名として名付け、「三蔵」という地名は大寺薬師が全盛の頃、寺領地を名付けたものと考えられます。

最近、「青木」と「三蔵」と呼ばれる地帯で発掘作業が行われ、その発掘調査の結果、弥生時代の四隅突出型墳丘墓が発掘されました。また奈良時代の、かなり充実した集落の跡・そして、役所のような神社が立ち並んでいたらしい事、全国ではじめての木製の神象が発見されています。

